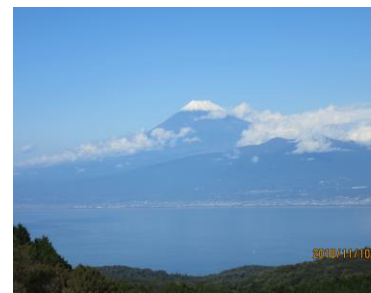


ているらんぷ

第10号 (2019年1月1日発行)



第10回記念号



ドライブツアー in 熱川温泉



<掲載内容・特集> *数字は入学年度(敬称略)

- | | | |
|--------|---------------|--|
| 2頁 | 過去の「ているらんぷ」表紙 | |
| 3頁 | はじめに | 佐々木(68) |
| 3~17頁 | 会員からの寄稿 | 篠(69)、三木(67)、江間(68)、柴沼(69)
羽入田(70)、吉岡(04) |
| 17~19頁 | ドライブツアー | 山崎(72) |
| 20~21頁 | 同期会 | 佐々木(68) |
| 21頁 | 編集後記 | 佐々木(68) |

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第1号 (2014年8月発行)



第2回総会 (2014年7月19日)
 於：首都大学東京レストラン、ルヴェンソ ヴェール南大沢


<おもな掲載内容> ●数字は入学年度 (敬称略)

- 1～5頁 総誌、幹事の言葉
- 6～7頁 役員より (岡崎利、小島利、河本巧、坂野7、小西9、山崎7、佐藤9)
- 8～11頁 会員より (山田先生、伊藤先生、岸井40)
- 12～15頁 協会会報からのフォーラム紹介 (一部)
- 16～18頁 協会会報、山崎7、武井7、金澤6、赤藤6、田中8、吉野4、藤原9)

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第2号 (2015年1月発行)



1970年の特大賞 (原簿はセドリック) 横田1815 <08の会のPVより転載>


<掲載内容> ●数字は入学年度 (敬称略)

- 1～4頁 同郷会報より：創立・男性「自動車部の思い出」 君崎5、加藤5
- 5～6頁 同郷会報へのインタビュー：(インタビュー) 坂本68、河本70
- 7～12頁 会員からの寄稿：吉野4、中川7、藤田7、坂本7、山崎7
- 13～15頁 役員・幹事からの寄稿：山崎7、河本70、青藤9

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第3号 (2015年8月発行)



江の島 (神奈川県藤沢市) の花火 (1949年入学、藤田さん撮影)


<掲載内容> ●数字は入学年度 (敬称略)

- 1～3頁 役員より：岡崎会長の挨拶、河本会長の70の巻頭語
- 4～5頁 幹事報告： 財大協会の報告 (其の十、次巻巻、巻頭) 巻
- 6～12頁 会員からの寄稿： 三浦4、高橋4、守野4、藤村、武元、金子4
- 13～18頁 新入会員の自己紹介： 寺田1813
- 19頁 編集後記： 坂本利、岸田9

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第4号 (2016年1月発行)



「風景と紅葉の写真」(1947年入学、小沢さん撮影)


<掲載内容> ●数字は入学年度 (敬称略)

- 1頁 エッセイ： 小沢9
- 2～3頁 同郷会報寄稿： 1～3： 山崎7、安永8、小島8、青藤8
- 4～6頁 総誌： 全「1年おしり」の紹介
- 7～11頁 会員からの寄稿： 戸部(特別会員)、森本6、藤原7、田上8、吉野8、赤藤4
- 12～15頁 同郷会の活動報告： 横田 (2015年度主筆)
- 16頁 編集後記： 坂本利、岸田9

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第5号 (2016年8月発行)



総会の第2部、総会での乾杯

<掲載内容・第4回総会特集> ●数字は入学年度 (敬称略)

- 1頁 はじめに
- 2～3頁 総会前： 写真、役員紹介
- 4～7頁 総会： 次席、写真、報告 (岡崎5、河本7、坂野7、山崎7)
- 8～14頁 総会中： 次席、写真、乾杯の挨拶、出席者のコメント紹介、新入会員の自己紹介
- 15～19頁 二次会： 写真、出席者からのメッセージ
- 20頁 編集後記

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第6号 (2017年1月発行)



◎88歳でレーシングカート
 走行中！
 想像以上に楽しかった思い出のシーン
 グラビアです。
 高田 (1966年入学)

◎5歳で免許が手に入りました！
 10000の高速ジェットカーでゴー
 トが楽しめる施設をキャッチ。
 小沢 (1967年入学)

<掲載内容> ●数字は入学年度 (敬称略)


- 2頁 はじめに 佐々木48 藤原孝英の辞書 横田66、小沢47
- 3頁 40年経って 小沢47
- 4～11頁 会員からの寄稿 佐々木48、高田66、藤原孝英67、赤藤68、佐藤68、高野70、小沢71、藤原92
- 12～19頁 同郷会報より 小沢47、赤野79
- 20～22頁 総会報告 山崎72、中山71、佐々木48、佐藤81

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌


ているらんぷ

第7号 (2017年8月発行)

2017.7.7-8
 府大戦



白車の競走車



赤車の競走車

ジムカーナ戦
 力走風景

<掲載内容・第5回総会特集>


- 1頁 はじめに
- 2頁 幹事、役員紹介
- 3頁 会報後記
- 4～7頁 総会、会計報告
- 8～9頁 現地の活動報告
- 10頁 ドライブツアー報告
- 11～15頁 出席者からの祝賀報告
- 16頁 総会後の写真
- 17頁 2次会写真
- 18～21頁 参加できなかった方からの祝賀
- 22頁 総会報告
- 23頁 幹事、役員紹介
- 24頁 編集後記

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第8号 (2018年1月発行)

2017.11.11-12
 ドライブ会
 機名・赤城



ドライブ会
 フリー部門
 優勝チーム

<掲載内容・特高> ●数字は入学年度 (敬称略)



- 1頁 はじめに
- 2～3頁 機名しいき出し
- 4～8頁 特高： 68年目、69年目、70年目、08年目、09年目、08年目
- 9～12頁 海外ドライブ： 68年目
- 13～16頁 ドライブツアー： 72年目、69年目、68年目
- 17～17頁 総会報告： 68年目、70年目
- 18～19頁 総会中： 71年目
- 20～21頁 現地の活動報告： 68年目
- 22頁 編集後記

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第9号 (2018年8月発行)

第6回総会と
 府大戦

<掲載内容・第6回総会特集>

- 2頁 はじめに 18～19頁 参加できなかった方からの祝賀
- 3頁 総会報告 19頁 編集後記
- 4頁 幹事報告 20頁 幹事、役員紹介
- 5頁 会長挨拶 20頁 60周年記念イベントの開催6せ
- 6～8頁 活動、会計報告
- 9～12頁 現地の活動報告
- 13頁 ドライブツアー報告
- 14頁 出席者からの祝賀報告

＝はじめに＝

編集担当 佐々木(1968年入学)

皆さま、新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

「ているらんぷ」(復刻版)は、お陰様で今号で第10号となりました。
前頁には、これまでの「ているらんぷ」(復刻版)の歩みを振り返って頂けますように、第1号～第9号までの表紙を一覧で掲載いたしました。この5年間のOB&OG会活動の足取りとともに、「ているらんぷ」(復刻版)の足跡を辿っていただければ幸いです。

この第10号には、真っ先に1969年入学の篠さんから記念号に相応しい特別寄稿「全国一乃宮巡り＝信濃国一乃宮諏訪大社参拝の巻」をお送りいただきました。また、1967年入学の三木さん、1968年入学の江間さん等、同世代の皆さんには本当に懐かしい方々の寄稿も盛り込まれました。「創部60周年記念パーティー」の直前号として、自動車部への思いを更に膨らませていただければと思います。

尚、3月には、この「ているらんぷ第10号」の別冊として「自動車部創部60周年特集号」を臨時増刊する予定ですのでご期待ください。

篠(1969年入学) 全国一乃宮巡り 信濃国一乃宮諏訪大社参拝の巻

1.はじめに

2018年4月26日(木)、1968年入部組小島、佐藤、柴沼、竹本、安永、篠6名は、長野県蓼科高原にて二組でゴルフを行い、その日は安永さんの取計いで豪華施設と美食の長谷工グループ保養所蓼科ブランチエラリゾートに宿泊しました。翌27日、竹本さん宅である改装した古民家(元は奥様の実家)を訪問した後、茅野・諏訪地方を竹本さんの案内で、6名一台のクルマに同乗し観光しました。

ゴルフ会の経過や絢爛保養施設の居心地そして古民家改装ビフォーアフターなど興味深い話題は他者の報告に譲り、多くの人にとってはどうでも良いが、私にとって趣味の世界、重大関心事である信濃国一乃宮諏訪大社参拝について、まとめてみました。

2.一乃宮とは

今から数十年前の自動車部時代、運転練習のため、遠征と称し日本のあちらこちらを走り、加えて自主練習と称し同僚部員と北海道一周など回りました。その結果、若い時期に日本国中を一巡りし全ての県に足跡を残し見聞きしたことが、東京育ちの私が社会人として日本全国からの出身者と交わりを深める上で大変役立ったと思っています。

さて、それから数十年が流れ、定年退職を前にして、もう一度日本の良さである温泉、花見・紅葉、神社・仏閣、名所・旧跡など訪ねて隅々まで回ってみようと思い立ちました。

先人達は、既に「四国八十八カ所巡礼」、「百名山登山」、「百名城登城」などに挑戦していましたが、私は神社巡り「全国一乃宮参拝」をしようと決心しました。

一乃宮は平安時代から鎌倉時代初期にかけて整った、その地域における最上位の神社です。六十六国に一乃宮は存在しますが、時代の変遷もあり一国内に二社以上

の一乃宮が存在する場合があります。また、北海道や沖縄など六十六国以外では由緒ある神社を「新一乃宮」としており、それら合計で日本全国津々浦々、約 100 カ所の神社を参拝する旅となります。

3.ご朱印帳

神社・仏閣参拝での必須のアイテムと言えば、「ご朱印女子」ですっかりお馴染みになったご朱印帳です。自動車ラリーでもチェックポイントがあるように、一社ごとに参拝の証を達筆な文字で神社名、参拝日に朱印を重ねて頂きます。後々、ご朱印帳のページを開くと参拝した時の情景が思い浮び一瞬にして時間が逆戻りするスーパーツールです。

一乃宮巡りには専用のご朱印帳があります。特徴の第一は B5 版と通常の 2 倍の大きさであること、第二は最初から神社名・神様の名前が記載されており、行くべきところが明示されていることです。私のご朱印帳は 2012 年 9 月 23 日に筑後国高良(こうら)神社(福岡県久留米市)にて購入したものです。どの一乃宮でも入手できます。

ちなみに、ご朱印帳を他に 4 冊保持しています。うち 2 冊は神社編、2 冊は仏閣編で、神社編は勅祭社・総本社シリーズとその他著名神社シリーズ、仏閣編は京都・奈良シリーズと他地域著名寺シリーズに分けており、基本は時系列順になっています。

4.御柱祭・木落とし

前置きが長くなりました。そろそろ本題に入ります。

諏訪大社のことは、「御柱祭」と「御神渡り」で皆さんもよくご存じでしょう。御柱祭(おんばしらさい)については、竹本さんのご案内と奥様からのご説明で現地の主体者でないと分からないことをいろいろと教えて頂きました。その一端を簡潔に記したいと思います。

TVで放映された御柱祭のクライマックスである「木落とし」の場面、太く長い木に跨った氏子達を次々と落としながら御柱と呼ばれる巨木が急坂を凄い速さで落下する映像を皆さんご覧になったのではありませんか。日本一危険な祭りと言われています。

御柱祭は正式名称「式年造営御柱大祭(しきねんぞうえいみはしらたいさい)」、数え 7 年に一度、申年と寅年に行われます。従って前回は申の 2016 年、今回は寅の 2024 年になります。

今回、「上社(かみしゃ)木落とし坂」と「下社(しもしゃ)木落とし坂」双方を竹本さんの案内で見学することができました。下社のそれは最大斜度 45 度、上から覗くとちょうどスキー場の最上級斜面に立ったようです。距離にして約 100 メートル。下を流れる川の対岸に客席が設けられ勇壮な祭りを見物できるようになっていました。竹本さんによれば、『テレビカメラ用の櫓が立てられ、斜面の急峻さが分かるように撮影している。御柱をせり出した後、繋いでいた綱を斧で断ち切って一気に落とす。』そうです。

5.御柱祭・御旅所

上社御柱は、山から曳きだされ「木落とし坂」を通り宮川の川越しで汚れを落とし、氏子の手によって運ばれます。竹本さんのご自宅で伺った奥様のご説明です。『家の裏の

道が御柱街道と呼ばれ、祭りの時、御柱が通る道です。山から里まで曳くので、途中泊まる場所が必要です。それがうちの裏の注連掛(しめかけ)で、街道に本宮一の柱から前宮四の柱まで八本が1泊します。そこに石碑があるのでご覧ください。』

案内された石碑には、「諏訪大社御柱街道御旅所(おたびしょ)」の文字が刻まれています。

『御神木は八ヶ岳御小屋山から諏訪の上社まで人力で曳かれて行きます。この地区は「子之神」と言いますが、神様が休む「寝之神」とも呼ばれます。「御旅所」となっている注連掛と呼ばれる小山は、もともと我が家の土地でしたが、明治の時代に曾祖父が神社庁に寄進致しました。』

「御旅所」は裏庭の一角の中でも小高くかつ上部は平たんになっていて杉・樅などの巨木が数本、いかにも年輪を重ねて来たという風情で座していました。

数多くの神社を私も巡って来ましたが、「御旅所」までは足を運ばません。実はこれが2社目、もう一回は、尾張国真清田神社参拝の折、尾張一宮市民の友人にクルマで御旅所を案内して頂いたことがあるだけです。御旅所は観光案内や神社案内にもほとんど紹介されていませんので。

自宅の庭先が御旅所で、神様がお休みになる様子を伺えるとは、なんてラッキーなのでしょう。今回の参拝で最も感動した一つでした。

6. 諏訪大社の神様

諏訪大社は二社四宮から成っており、諏訪湖を挟んで南に上社、北に下社があり、その距離約10km。上社は本宮(ほんみや)と前宮(まえみや)、下社は春宮(はるみや)と秋宮(あきみや)に分かれ鎮座しています。

ご祭神は建御名方神(たけみなかたのかみ)とその妃である八坂刀売神(やさかとめのかみ)。上社・下社とも両方の神をお祀りしていますが、巷間では、上社は男神、下社は女神とされています。

本年2月、5年ぶりに諏訪湖で御神渡り(おみわたり)が現れたと報じられました。諏訪大社上社の男神が下社の女神に通う道筋と古来から言い伝えられています。神様の時間は悠久なので5年に一度でもお互い幸せで愛が深まるのでしょう。

建御名方神は出雲出身、大国主大神(おおくにぬしのみこと)の二男です。古事記上巻の国譲り編においては「建御名方神、千引(ちびき)の石(いわ)を手末(たなすえ)にささげて来て」と力持ちで気性の強い神様と紹介されています。

武家からの崇敬は厚く、源頼朝、北条一門、武田信玄、徳川家康などが寄進・奉納を行い武運長久と国家安泰を祈願したそうです。



『諏訪大社四社まいりマップ』

1) 上社

前宮を最初に参拝しました。車道からやや坂を上ったところに思ったより小さい社殿があり、その左右手前に 2 本の御柱がすくと立っています。前宮は諏訪大社発祥の地と考えられています。

御柱との初めてのご対面、感動ものです。下から見上げると結構な高さで、15 メートルはあるでしょうか、太さは直径 1 メートル弱、重さは 10 トンとか。神様から見て左前(参拝者からは右手前)が「一の御柱」、右前が「二の御柱」です。

清らかなせせらぎが流れている横を上り右後ろに出ると「三の御柱」が見えました。竹本さん曰く『上社の場合、抽選にて地区ごとに御柱が割り当てられる。前回の御柱祭では我が玉川・豊平地区は「前宮三の御柱」が担当となり、「この柱」を曳いた。晴れ舞台は「本宮一の柱の曳行」で抽選の前には氏子総代・氏子らで潔斎祈願をする。』様々な地区からの頼み、神様も苦笑していることでしょう。もう 1 本の「四の御柱」は見えにくいところにありましたが、社殿の裏に踏み込んで確認しました。

長く太い御柱を上社下社合計 16 本も山から宮まで人力だけで曳いて来るとは『凄いエネルギー、大変なことだ!』と、ここに一緒に来た仲間皆さんの感想でした。

次はクルマで移動し本宮です。

参道沿いに土産物屋やレストランが並び呼び込みの声も聞かれ、さすが本宮、華やかさが感じられます。鳥居をくぐると複数の社殿が立ち並んでおり、その多くは重要文化財に指定されています。本殿を持たない諏訪造りという独特の様式で、自然そのものを御神体とする古い神社の形式だそうです。ちなみに本宮の御神体は裏山の守屋山で四隅に御柱が鎮座しているのは前宮と同様でした。

2) 下社

次は諏訪湖沿いに半周し約 10km 離れた下社春宮へ向かいます。

途中、昼食タイムとなったので、竹本さん夫婦ご推奨のお店「やまさや」の個室にて山菜天ぷらを 6 名でシェアしながら信州ソバを食しました。山菜がちょうど旬の時期で冷たいお蕎麦と相性が良く美味しく頂きました。

下諏訪町春宮には、拝殿・左右片拝殿(さゆうかたはいでん)と呼ばれる立派な建物があり、重要文化財に指定されています。拝殿は楼閣構造になっており、一昨年国宝に格上げされた京都男山の石清水八幡宮の本殿楼門に似ているなあと感じました。ちなみに石清水八幡宮は源氏一族の守護神です。春宮の御柱が社殿の四隅に鎮座しているのは上社同様ですが、向かって左奥の三の御柱が少々左に傾いているようで気にかかりました。

下社の神様は 2 月から 7 月までは春宮で、8 月から翌年 1 月までは秋宮で過ごされ



『諏訪大社前宮ご朱印』

(他の三宮は省略します。)

ます。国道 20 号線を南から来ると下諏訪町内で交差点を左に曲がりますが、その交差点を逆に右折した突き当りに秋宮があります。また和田峠を越えて来た旧中山道が甲州街道にぶつかる要衝の地でもあります。

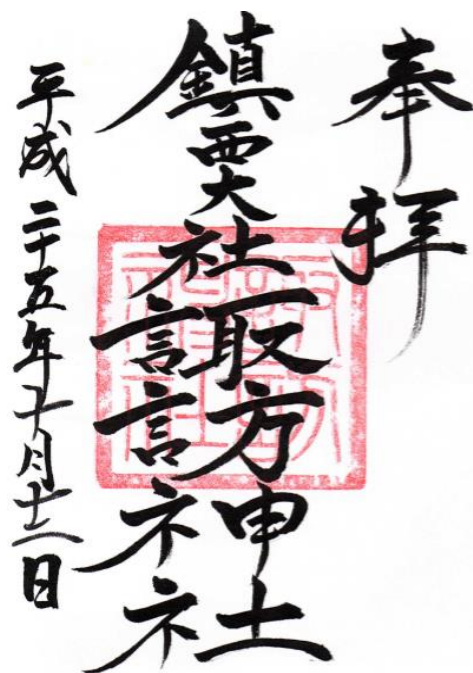
秋宮の造りは拝殿・左右片拝殿など春宮そっくり、建築時期もほぼ同じで重要文化財に指定されています。こちらの御柱は直立にすくと立っていました。春宮になく秋宮にあるのが神楽殿で、ここの注連縄はとても太く大きく、出雲大社の注連縄を思い出させるものでした。

7.番外 長崎諏訪神社

いきなり話は長崎に飛びます。皆さんご存知の「長崎くんち」、この有名な祭りは長崎にある「諏訪神社」のお祭りです。当然ご祭神は「建御名方神(たけみなかたのかみ)」です。

もう数年前になりますが、長崎で自動車部同期古川さんのクルマで市内を案内して頂き、活きのよいお寿司屋さんで夕食を共にしました。諏訪神社は一之宮ではありませんが、長崎くんちのお祭り元ということで参拝しご朱印を頂いてきました。

長崎県と長野県と遠方に分かれている同期生が同じ神の懐に居るのもよき縁なのでしょう。



『鎮西大社諏訪神社ご朱印』

8.おわりに

いつもは一人で寂しく、時にはひと気も乏しい一之宮巡りをしているのに、今回は自動車部同期の小島さん、佐藤さん、柴沼さん、竹本さん、安永さん 5 名にお付き合い頂き、明るく楽しい参拝になりました。特に竹本さんご夫婦には、木落とし坂や御旅所の現場をご案内・ご説明頂き、いままでの神社参拝とは次元の異なる深い感慨を得ることができました。厚く御礼申し上げます。

さて今後ですが、当初、一之宮巡りは 5 年間で完遂するつもりでいました。今年は早 7 年目、第 4 コーナーを回ってラストスパートに入るべきところに来ました。しかし残りモノに不苦(ふく)が待ち受けています。離島にある佐渡国、隠岐国、壱岐国、対馬国、琉球国の一之宮です。昨年はそのうちの一つ、壱岐国一之宮「天手長男(あまのたながお)神社」に参拝しました。残りの参拝はいつになるのでしょうか。2~3 年後、全国一之宮を巡り終わった暁には、また皆さんにご報告したいと思います。

三木 (1967 年入学) 運転にかかわる失敗談をいくつか

1.まえがき

大学に入学した年の夏休みに自動車運転免許を取得して以来、はや 50 年以上が経過した。その間、仕事の関係で 1977 年 9 月から 1985 年 6 月までオーストラリアのシ

ドニーに、1994 年末から 2002 年 9 月までドイツのデュッセルドルフに、合計約 15 年海外駐在する機会を得た。自動車で旅行をすることによって、日本国内に限らず海外の国々の景色、文化及び歴史に多く触れることができ、楽しく懐かしい思い出となっている。

他方、運転技術が未熟であったり、その地域の事情をよく知らなかったりすることによる失敗も色々経験した。ここではそれらをいくつか挙げてみようと思う。なお、当時の記憶を頼りに思い出すまま書くので、間違いがあるかもしれない。また、現在ではかなり状況が変わっていることもあろうが、その点をご容赦いただきたい。

2. 交通法規の試験であえなく不合格

日本の免許から外国免許への切り替え、また、帰国後の日本免許への切り替え手続きは、比較的簡単である。ドイツ免許へ、また、日本免許への切り替えは、技能試験はもちろんのこと交通法規の試験も免除された。ところが、シドニーでの切り替えにあたっては交通法規の試験があった。法規に関する小冊子があったが、どのような試験が実施されるのか全く知らぬまま一通り目を通して試験に臨んだ。当時はカウンター越しの1対1の口頭試問で、小冊子の最終ページにあったまとめ部分の数か所を指さし、「これはどう意味?」と質問してくるものであった。日本免許取得時の学科試験に落ちたことはなかったが、会話もろくにできなかったこともあり、解答に詰ってあえなく不合格。再度行ったときは、そのページだけを勉強して試験に臨んだことはもちろんのことである。

3. あわや大惨事!?

「ているらんぷ」第 2 号の小河氏の寄稿に紹介されている北海道オロフレ峠での事故は、自分にとって初めてのものであった。未舗装道路の山道をのろのろ走る前の車を追い抜いて軽快に走行していたつもりであったが、ハンドルを取られて左手の山側にクラッシュ。もし車の向かった方向が谷側であった場合はガードレールのない谷底に落ちていき、もっと大きな事故になっていたかもしれない。追い抜いた車にみつともないところを見せてしまい、また、一緒に旅行したメンバーに大変迷惑をかけてしまった。

オーストラリアにて休暇でクイーンズランド州を訪れた際、レンタカーで遠出をした帰りであった。陽もとっぷり暮れて、街灯もなく車の通行もほとんどない真っ暗な田舎道を走行していた。前方に車が1台停車しており、気にしないまま追い越して間もなく後方で「ピー」というけたたましい警笛が鳴り響いた。その場は何であったか確認もせずそのまま走行を続けたが、ひょっとしたら警報器も遮断機もない踏切であったのかもしれない。そうであれば間一髪難を免れたわけだが、通過が少し遅れたりすれば家族ともども今はない。

やはりオーストラリアでのこと、日本からの訪問者を迎えに行くために早朝シドニー国際空港に向かっていた。当時自宅から空港までの道路事情は悪く、いつものように道幅の狭い裏道を通っていたところ、大型犬が左側から突然車道に飛び出してきたためとっさにハンドルを右に切った。路面が雨で濡れていたこともあり、見事に 180° 以上スピンして後輪が反対側の路肩に当たって何とか停止した。近くに駐車中の車もあったが、犬を含めて幸い接触することもなく何事もなかったように運転を再開したが、これには一瞬びっくりした。

4. カメラのフラッシュが 1 日 3 回も光る

ドイツへ家族を呼び寄せて間もなくのころ、週末を利用して郊外にドライブに出かけた時のことである。ドイツの田舎道(オーストラリアも同様であるが)は、特に表示がなければ一般道でも制限速度は 100km/h である。街中に入るしばらく手前で 60km/h の速度制限標識が現れたのでそれに従って走行していると、パカッとフラッシュが光った。「アレッ!?!」と思いつつ走行を続けたが、行きと帰りで合計 3 回もフラッシュが光った。

街中での制限速度は通常 50km/h であるが、田舎道では街中に入る際の制限速度表示はなく、黄色地に黒で書かれた町名や村名の標識が「ここから街中ですよ!」という 50km/h の制限速度表示を兼ねることを後で知った。その日通った道路にはカメラが多数取り付けられていたようでもあったが、運転免許切り替えの際にしっかり勉強しておけば避けられたのかもしれない。その後、ドイツ滞在中にカメラが光ることは幸いなかった。

余談であるが、ドイツから帰国後しばらくして運転者の写真付きで速度違反の請求書が転送されてきた。帰国するにあたって車を売却したが、引き渡したその日に引っ掛かったようで、私ではない旨レターをつけて返却したことはもちろんのことである。

5. あのゲートは?

ドイツで長く運転しているとアウトバーンを含めて周囲に有料道路がないこともあり、その意識が全く薄れてしまう。休暇を利用してベルギーを経由してフランス・パリへ向かっていた時のこと、遠くにゲートが見え「なんだろう?」と不安に思いながら近づいたところ「ああ、料金所か!」ということがあった。

2000 年のクリスマス休暇を利用して、家族で USA フロリダのディズニーワールドに行った時のことである。オランダ国際空港でレンタカーを借り、ホテルへ向かう途中で料金所が現れた。有料道路があるという意識が全くないまま入ってしまったようであった。これだけなら問題ないのだが、その時 US ドルの現金を全く持っていなかったため、ゲートで係員に事情を説明しすったもんだして支払いを免除してもらい通してもらった。その際、次の出口で有料道路から出るよう言われたのだが、出口が分からぬまま走行していると、それほど走らないうちになんとまた料金所が現れた。そこでは後続車に迷惑が掛からぬようゲートの少し手前で車を止め、再度事情を説明してなんとか通してもらった。ホテルに到着してから US ドルに換えようと考えていたため、現金の持ち合わせがないが問題ないかをレンタカーの事務所でも確認したうえでの事態であったが、少額の料金にもかかわらず短時間に 2 回もみじめな思いをすることになってしまった。これも有料道路の感覚が薄れていた証拠であるのかもしれない。

なお、「ているらんぷ」第 4 号の豊島氏の寄稿にあった、後日に請求書が届くということとは幸いになかった。

6. あとがき

上記の他にもいくつかあるが、長い期間運転しているとこのような失敗は多かれ少なかれ誰でも経験しているのではないかと思われる。幸い人身事故に至ったことはないが、高齢者マークを付ける年齢となり、家族からは運転時の反応が鈍くなったなどと言われ

ることもあるので、今後とも安全運転を十分に心がけていこうと思っている。

江間 (1968 年入学) 都立大入学以来 50 年の来し方

最近、首都大学東京という名称をまた東京都立大学に戻すという話題を時々耳にします。都立大の名称に慣れている小生には朗報ですが、首都大学東京の名称に慣れ親しんでいる皆さんにとっては、複雑な思いであろうと思います。自動車産業の世界も含め世間は急速に変貌を遂げているというところでしょうか。

[在学当時の世間情勢]

さて、小生が都立大に在籍したのは 1968 年 4 月から 1972 年 3 月の 4 年間でした。その当時の世間の様子はどうか、少し拾い上げてみました。

1968 年 4 月～12 月

十勝沖地震、東大安田講堂封鎖、郵便番号制スタート、日本初の心臓移植手術、第 19 回オリンピックメキシコ大会、東芝府中 3 億円事件、ヒッピースタイルの登場

1969 年 1 月～12 月

東大安田講堂封鎖解除、東名高速道路全線開通、アポロ 11 号月面着陸

1970 年 1 月～12 月

国産宇宙衛星“おおすみ”打上げ、大阪万博開催、よど号ハイジャック事件、三島由紀夫割腹自殺、ウーマンリブ第 1 回大会開催、ケンタッキーフライドチキン 1 号店開店

1971 年 1 月～12 月

成田闘争強制代執行、大久保清事件、対ドル・レート変動相場制移行、民間機／自衛隊機衝突・墜落、マクドナルド 1 号店開店、富山イタイイタイ病訴訟判決、沖縄返還協定調印

1972 年 1 月～3 月

横井庄一氏グアム島で発見、第 11 回冬季オリンピック札幌大会開催、連合赤軍浅間山荘事件&妙義山中大量リンチ事件

如何ですか。「ああ、そんな事あったなあ」と思う方もいれば「何、それ」という方もいることでしょう。総じていえば高度成長期の負の遺産が顕在化しつつ、その一方で新しい世相の流れが起りつつある時期であったと思います。

[学生時代]

小生はこのような時代背景の中で大学生活を送ったわけですが、その当時の小生自身はどうであったかと思えば、世間の流れとは裏腹に毎日何の希望、目的もなく過ごしていたように思います。(チョコちゃん流に言えば「ボーと生きてんじゃねーよ」という状態)その引き金になったのは勿論小生の生来の性格にありますが、入学直後の学園封鎖(1学期にわたる休校)のインパクトは大きく、この間にすっかり怠け癖がついて

しまい、その後も改善すること無く、4年間で惰性で過ごしてしまったというところです。最近まで単位不足で大学を卒業できていないと焦っている夢を見るのは、当時のそのような生活態度に帰結していると思う次第です。

しかし、そんな生活の中でも希望を与えてくれたのが自動車部でのクラブ活動でした。ここで先輩、同輩、後輩の皆さんに出会えたことが救いとなり、何とか落ちこぼれることなく4年間で過ごすことができたと思っています。都立大を卒業したのではなく、都立大自動車部を卒業したと時々言われたこともあったように思いますが、小生にとっては的を射た言葉かもしれません。

では、自動車部での思い出はと問われるとこれがまた皆さんのようにあの時はあであった、こうだったというように鮮明には思い出せず、山中湖合宿での繋ぎを着ての体操はきつかったなあとか、遠征では兎に角眠かったなあとか、大阪人の運転は荒っぽかったなあ(府大戦への途上)という程度の茫洋とした記憶しか残っていません。ただ、学校の休暇中に同輩で行った北陸ドライブ、東北ドライブ旅行は他の事より多く記憶に残っています。立山をバックにしたチューリップ畑、下北半島、恐山のまがまがしい風景などは今でも脳裏に浮かびます。

[会社生活]

先に書いたような学生時代を過ごした小生ですが何とか卒業は許され、一企業(川崎重工業)に潜り込むことができたわけですが、そこで配属されたのが発電用ボイラー設備の設計部門でした。燃焼(伝熱)、流体などはいい加減にしか授業を受けていなかった小生にとっては、まずい所への配属となってしまったわけです。ということで他者に追いつくためには倍以上の時間を費やす生活が、その後延々と続くことになり、30代、40代は終電車帰りが当たり前(場合によっては会社へ泊まり込み)という生活をずっと続けてきたように思います。(今では規則上こんな勤務は許されていません)このような生活になったのも学生時代をボーと過ごした結果であり、自分を恨めど後の祭りというところです。とにかく周りに迷惑をかけないで良い製品を作ろうと、そればかりを考えて会社生活を送ってきたように思います。ただ、そんな会社生活の中でも嬉しかったこと、楽しかったことはあります。嬉しさといえばやはり自分が設計に参与したプラントが要求性能を達成し、無事引き渡された時でしょう。その達成感は何物にも代えがたいものがあることは、皆さんも経験済みのことだと思います。今でもプラントサイトを訪れると当時が思



い出されます。一方、楽しかったことといえば仕事で海外各国にただっこ(会社の費用で)で行け、色々見聞できたことでしょうか。初めてヨーロッパに入った時の整然とした街並み、南アフリカでみた難民キャンプと屯ろう人々など、その感慨は今でも忘れられません。このように学生時代をいい加減に過ごしたために、決して楽とは言えない会社生活を過ごす羽目になったわけですが、何を間違えたのか古希に至った今でもまだ会社に居座っております。若手設計者の育成のためというのが理由だそうですが、さすがに最近では気力、体力の衰えは否めず“ているらんぷ 第 10 号”発行後の 3 月には、平成の終焉とともに会社生活を引退しようと思っております。

柴沼 (1969 年入学) 還付金詐欺のお話し

今年の 6 月のある金曜日の夕方 6 時ごろに、渋谷区役所の医療福祉給付係の木村ですが、ご主人さまはご在宅ですか？ 昨年末に還付金の給付の連絡を差上げたのに、まだ受け取っていらっしやらないですよ、との電話が我が家にありました。

そのような書類を受け取った覚えはない、と私。区役所には受領印のリストがあるので、貴方の方でその書類を紛失されたのでは？ 私、すいません。還付金が 31,568 円もあるので、それを無駄にするのは、もったいないので、この時間に連絡させていただいています。特別な計らいで来週の月曜日に限って、貴方の銀行の口座に振込みますので、通帳とキャッシュカード、身分証明書、印鑑をもって銀行の窓口に行けますか。「はい」と私。どこの銀行のどこの支店に行けますか？ 三菱 UFJ 銀行の浦和支店なら昼休みに行けます。了解しました。その手続きには普通は 2,700 円かかるのですが、三菱 UFJ 銀行の顧客さんであれば、無料にさせていただけるということなので、預金残高が 50 万円以上の通帳をもっていってくださいね。その還付金の振込みシステムは稼働したばかりなので、時々不具合が生じるので、他の三菱 UFJ 銀行の口座のキャッシュカードもあれば、それもご持参いただければ、確実に還付できると思いますよ、それでは月曜日の 11 時頃に銀行から貴方の携帯あてに連絡しますので、その指示にしたがってください、ということで電話は切れました。

私の場合は携帯が振動したのに気が付かなかったため、銀行つまり詐欺師と上手くコンタクトが取れなかったため、渋谷区役所に再確認の電話をしたところ、そのような部署も木村という担当者も、おりません。同じような問い合わせがいくつかきていますので、間違いなく詐欺ですから、今後のために警察に連絡してください、ということで我が家の電話に警察が無料レンタルの録音装置を付けてくれることになり、先日渋谷警察署の防犯抑止係の警部補が我が家に来て、以下の話をしてくれました。

私の口座に振込んでくれるということなのに何故お金を吸い取られてしまうのですか？ の問いに対して、彼らは実に巧妙なのです。銀行の ATM の所に行くと、私が銀行の担当者(実は詐欺師)に到着しましたとの電話をします。すると、彼らは先ずは、私の口座残高の確認をします。それは、残高以上の振込みをさせると振込み手続きが中断してしまうために、彼らは金が吸い取れなくなるからです。もろに残額を聞くと、だまされた人が怪しいと思うので、「残高の頭の数字は何ですか？」私「8 です」。「何桁の数字ですか？」私「6 桁です」。そこで、詐欺師たちは 80 万円以上の口座残高があるので、80 万円近

くを抜き取ることとなります。銀行での 1 口座からの引出しは 1 日 50 万円が限度ですが、振込みは 100 万円まで可能だそうです。

詐欺師はそれでは、あなたの口座への振込み手続きを始めます。最初に振込みというボタンを押してください。はい、と私。つぎに以下の番号をいれて下さい。これは当方の、つまり送り先の番号です。何々支店の 123456 です。つぎに、この数字を入れて下さい。785873 これが詐欺師への送金金額となるのですが、電話の指示のままにやっている人は、送金金額だとなかなか気が付かないようです。おかしいと思って、質問しても、詐欺師はシステム上の番号ですから、気にしないで下さい。といて、最後に送金ボタンを押させるのです。すると最後に、送金記録が出てきますが、これは本来の還付日から外れているので、証拠が残らないようにすぐ破棄してください、と ATM 周辺のゴミ箱に捨てさせるようです。最後に、詐欺師は 3 日後に 31,568 円が還付されますので、通帳に記帳して確認してくださいね。騙された振込み者はありがとうございます。といて電話を切ります。数日後に通帳を確認すると残金がわずかしくなく、騙されたことに気が付くのです。

複数の口座がある場合は送金したあとに、システムの不具合が生じたということで、同じような手続きを繰り返して、別の口座からも吸い取られるということです。3 つの口座から 300 万円近くを吸い取られた人もいます。

詐欺師は巧妙で話が旨いので、彼らと会話をしていくと殆どの方が騙されるそうです。騙されないためには、一端電話を切って、冷静になって、電話をかけなおすことが肝心だそうです。でも、金曜日の 6 時だと直ぐに役所に確認できませんが、銀行に行く前に必ず役所に確認してください。怪しいと思ったら警察にも一声かけて下さい、とのことでした。

銀行からの電話を受けるためにということで、携帯の番号も詐欺師達に教えてしまっているのです、自分の携帯は発信先の名称が出ない場合は着信拒否に、家の電話は録音機能を働かせるようにと、警察から指導されました。皆様も騙されて、大切なお金をなくさないように十分気を付けてください。これは、私からの伝言でもありますが、同時に渋谷警察署からの伝言でもあります。以上です。

羽入田（1970 年入学） 我が町、我が祭り

東京都江東区森下三丁目という町に生まれ育てられて 67 年が経ちました。今までの皆さんとちょっと趣を変えて、自分の町と今年行われましたお祭りについて書きたいと思います。

私が小さい頃は、町名は江東区深川高橋三丁目でした。行政が実施した町名変更で深川という冠が取れた味気ない町名になってしまいましたが、深川は日本橋や神田、芝などと同じように付近一帯を示していました。今でこそ、深川というと東京メトロ東西線



深川神明宮

の門前仲町や木場を思い浮かべる方も多いと思いますが、実は深川は森下一帯が発祥の地なのです。

伝承によれば、慶長元年(1596年)、徳川家康が森下一帯を巡視した折に、摂津出身でこの地帯を開拓していた深川八郎右衛門に地名を尋ねたところ、まだ付いていないと答えると、深川を地名とするよう申し付けたとのこと。

深川八郎右衛門は敬愛する伊勢神宮を勧請し、その小さな祠が私たちの氏神様である現在の深川神明宮となりました。

門前仲町にあります有名な富岡八幡宮は、あくまでも富岡であり深川ではありません。また、私が卒業した小学校は深川小学校であり、近くにある中学校は深川第一中学校です。深川神明宮の宮司も常日頃から声高らかに深川発祥の地、深川発祥の神社と謳っています。

今年はこの深川神明宮の例大祭、所謂、本祭りでした。8月の10、11、12日に行われましたが、準備はそれこそ前回の例大祭が終わってから始まっていると言っても過言ではないと思います。10日が本殿祭、11日が宮神輿の巡幸、12日が町神輿の連合渡御となります。10日の夕方には稚児行列が行われますが、私も息子たちも幼稚園の時に参加しましたが、最後にはぐずついた思い出が残っています。



町神輿への御霊入れ時の集合写真
(前列右端が私です)

お祭りというとやはり御神輿だと思いますが、11日の宮神輿は昭和9年製作の台座四尺四方の大神輿で、今年は午前中に西半分の町内を、午後には東半分の町内を巡幸しました。私たちの氏神様だということを改めて実感しながら、町内ごとに宮神輿を引き継いでいきました。

12日がいよいよお祭りのクライマックスとなる町神輿の連合渡御で、午前6時には町会会館に集まり7時には連合渡御の出発地点に向かいました。いよいよ8時に氏子12町会の大神輿が順次出発しました。私たちの森下三丁目は今回は5番目でした。

森下三丁目の大神輿は昭和15年製作で芸術性の高い神輿で今では製作することが難しいと言われています。また、宮神輿に次ぐ大きさで重量もあり、町会自慢の神輿ですが、担ぐにも大勢の人数が必要となる神輿でもあります。

連合渡御の途中から宮入まで各々の町会の子神輿も加わり、12町会がまっすぐな道を一斉に練っていく姿は壮観でもあり感無量な



宮神輿巡幸

気持ちになります。

私たちのお祭りは水掛祭りとも言われお神輿に水を掛けることで有名です。老若男女、水を掛ける方も掛けられる方もワイワイキャーキャー、全員が楽しんでいます。消防団もこの日は思い切り消防ホースで水を掛けまくっています。

昼食後、新大橋通りと清澄通りが交差する森下交差点で、町会毎にお神輿を高々と差し上げ最高のパフォーマンスを繰り広げ、お祭りは最高潮となります。森下交差点に続いて設けられている解散場所に全町会が勢ぞろいし、全氏子による大手締めで幕を閉じます。その後、自分たちの町会に戻り、町会内を夕方まで練り歩き、午後 5 時過ぎにようやくお神輿を収め、長い一日が終わります。



連合渡御時の水掛け

9 月 1 日に直会を行い、乾燥させるために町会会館に置いておいたお神輿を 9 日に神明様の神輿庫に収め、今回のお祭りが全て終了しました。

次回、3 年後にはいよいよ 70 歳に突入しますが、全世界の平和をそして家族の幸せを祈願するためにも、お祭りに参加したいと思っています。

吉岡（2004 年入学） 自動車と私

自己紹介

こんにちは、2004 年度入学の吉岡と申します。この度貴重な機会を頂きありがとうございます。自動車部を卒業して 10 年が経ちました。10 年間で振り返ってみた思いを赤裸々に書いてみたいと思います。まずはご存じない方も多いと思うので、簡単に自己紹介させて頂きます。私は現在、本田技術研究所 4 輪 R&D センターで、エンジンの振動騒音開発を担当しています(ネタになる実績だと、S660 ターボリーフの目標値設定や仕様提案など)。

学生時代の車歴は NA6 ロードスター→180sx→NA6 ロードスター(4 スロ仕様)で主にドリフトとジムカーナをやっていました。自動車部員としての競技活動はしませんでした。自動車部の経験を活かして、都立大として初めて学生フォーミュラーに出場した時の初期メンバーとして、車両製作とドライバー担当として活動しました。



2006.11.1 学生時代に乘っていたロードスター(エビスサーキットに向かう時の一枚。懐かしいですね~)

自動車部時代の思い出

私は子供の頃から車が好きでした。中学生の時にはグランツーリスモが発売され、ライセンスオールゴールドを取る中でライン取りなど運転の理論を学びました(今でも息子と一緒に楽しんでいます)。

大学選びの基準は自動車部があることでした。大学生になりすぐに自動車部の新歓イベントに参加。夜な夜なドライブに連れて行ってもらい、バーチャルでは味わえないリアルに魅了されたのをよく覚えています(音楽を聴いていた人が、初めてライブに行ったときの感覚に近いかもしれません)。当時は走って帰って来た車の真っ赤になったブレーキローターでタバコの火をつける先輩や、何故か室内からブレーキランプが見えるボロボロの車でドリフトする先輩、ガードレールのリベットにのみ接触させて「よし！」と喜んでる先輩…、その後の活動においても、とんでもない長さの消えないブラックマークを残した先輩…、テンションロッドが折れて自走不可能になった車両をメガネレンチとホースバンドでテンションロッドを作り突貫で走れるようにする部員、エンジンかからない車を〇〇km/hのスピードで牽引する部員…。自動車部時代の思い出を振り返るといろいろありすぎて、きりがありませんが、社会人になって振り返ってみて自動車部員の目的を達成するパワーは物凄くと思います



2006.9.3 自動車都合宿だったかな？

社会人になって

私が入社した2008年の大きなトピックは、リーマンショックや初代iPhoneの発売などがあります。(スマートフォンってまだ10年くらいなのですね!!)社会の変化スピードは早く、仕事のプロセスもどんどん変わっていきます。システムの複雑化、タスクの増加、効率改善のため少人数で進める体制に進化し、チームワークから個人ワークへ…。個人の影響力がとても大きくなっています。先輩と後輩と一緒に仕事をして先輩から仕事を学ぶというのは贅沢な話で、自ら課題を見つけ解決するために成長していくことが強く求められています(運転技術と同じですね。自分で考え運転し、うまい人の助手席を奪い取って技術を盗む。そしてまた自ら考え学んでいく…)。

自動車部の良さ

学生で自動車を所有し、維持管理することはとても大変です。お金がかかるので、睡眠時間を削ってバイトをし、食費を削り、公道を走らせるための法律や保険を理解し…etc。

その上で車を買って、税金と保険を払い、メンテし、乗って学び、壊して直す(単位取得を忘れがちになりながら(笑))ギリギリで車検を通し、きれいな車検ステッカーを貼ってまた走り出す。その大変なことをやりきった自動車部メンバーは社会に出ても強いと思いま

す。目の前のことで手一杯になりがちですが、自動車部は「自立して成長する力をつける最良の部活」と思います。

現役の皆様へ、例えばひと昔前はスカウトされないといふ芸能界に行けない時代でした。しかし今では YouTube で注目されれば、世界中どこからでもチャンスがある時代です。芸能界に限らず、努力した分だけ可能性が広がる時代です。「夢」もしくは「目的・目標」を持って頑張ってください！

車にまつわる話

私の現在の自動車生活ですが、2輪で年2回の耐久レース(De 耐)と4輪(S2000)でドリフトをしています。先日ターボ化が完了し、Link という ECU を用いて実車セッティングの勉強をしています。4輪で良く行くサーキットはエビスサーキットです。エビスに行くときや、宇都宮にお寄りの際はお声かけ下さい。自動車ライフを満喫していきましょう。



2018.10.27 会社イベントにて長男と

おわりに

自動車部に顔を出せていないにも関わらずこのような機会を頂き、ありがとうございます。世代を越えて繋がりがあるということは、本当にありがたいことです。OB 会の設立・運営をされている幹事の皆様、また自動車部を盛り上げてくれている現役の皆様に改めてお礼申し上げます。

=OB 会&OG 会活動報告・1= 2018 ドライブツアー

幹事 山崎(1972年入学)

2018年のドライブツアーは11月10日～11日の土日に「ドライブツアー 伊豆半島」と題して開催しました。コースは韮山反射炉をスタート地点とし、最初に西伊豆の山道を走り、中盤は伊豆半島中央の湯ヶ島温泉から東に向い、終盤は大室山の北側半分を回ってから東海岸に出て城ヶ崎海岸でフィニッシュし、熱川温泉にゴールするというコースです。(詳細なコースはOB会HPのブログに掲載されている「2018ドライブツアーコース図」を参照してください)。

ラリー形式のドライブツアーも秩父、山梨、群馬方面と回数を重ねて残るエリアは伊豆か房総かということになりました。房総は都立大ラリーのコースとして採用されたこともあって懐かしい道もあるのですが、高い山が無く登り下りの盛り上がり欠けることと、昔のラリーコースは舗装こそされたものの狭い林道のままだったりが多く、ドライブツアーのコースとしては今一つとなり、今回は伊豆に設定しました。

伊豆は昔の運転練習で OB の誰しもが走ったところだと思いますが、当時の運転練習でよく使用した伊豆スカイラインは有料であることと土曜日はバイクが多いこと、伊豆南部の蛇石峠などはスタート地点から遠くなりすぎることなどでコースとして設定することを断念し、概ね伊豆半島の北半分でレイアウトすることにしました。前半の西伊豆スカイラインは 10 年ほど前に無料化されてからも交通量が少なく、前後の戸田峠への登りと船原峠から仁科峠への県道を含めて絶好のドライブコースです。特に戸田峠手前の 1CP とした達磨山レストハウスからは駿河湾越しの富士山を望むことができ、前日までの雨も上がって好天となった当日はきれいな富士山を見ることができました。



1CP 達磨山レストハウスからの富士山

本来であれば登り下りのある山道を前後半それぞれのコースに入れたところなのですが、天城山を越えて中央部と東海岸をつなぐ道が無いために、後半は割りと平坦なコースとなって盛り上がりには欠けたかも知れません。

それでも湯ヶ島から萬城の滝までの県道は林道かと思わせるような狭い部分もあり、土曜日ということで対向車もあって離合困難な場面に遭遇されたチームあったようです。他にルートが無いとはいえ申し訳ありません。

中盤は伊豆の田舎道を淡々と走ることとなりますので、途中のアクセントとして萬城の滝をコースに組み込みました。浄蓮の滝ほど有名ではありませんが、結構迫力のある滝で参加された皆さんはご覧になったでしょうか。

コース終盤の大室山周辺は観光で訪れたことのある人も多いと思いますが、一般的な道を避けて別荘地を抜け、一碧湖の脇をってから東海岸のメインルートである国道 135 号に一旦出て、川奈口から海岸沿いの県道に入るコースとしました。この川奈口のコース図 (C32) では交差点名「川奈口」の標識が対向車線側のみで進入方向側の信号機に付いておらず、戸惑われたチームもあったとのことでした。昨年のコースでも同じことがあり、コース案内 & 速度指示書に「交差点名は進入方向側に付いていない場合もあります。」との注意事項を書き加えたつもりでいましたが、皆さんに配布した指示書には反映されておらずご迷惑をお掛けしましたことをお詫びします。ドライブツアー終了後早速修正しておきました。但し、コース図作成者としてはコース図に載せている交差点名は追加の情報程度と捉えていただきたいと思います。交差点名は交差点に入る直前にならないと判らないことがほとんどで、道路形状や目標物により充分に手前側で判断できるようにコマ図は作成しているつもりですので。

フィニッシュは伊豆海洋公園駐車場に設定しました。城ヶ崎海岸の景色を楽しんでもらうためには手前にある門脇崎駐車場のほうが入り江に掛かるつり橋があるなど絶好なのですが、フィニッシュラインとする適当な目標物が無く、今回の設定となりました。またフィニッシュからゴールの熱川温泉までは 10km ほどとなり、これまでのドライブツアーよりも遠くなりましたが、天候も良くシーサイドの景色を堪能できたことと思います。

ゴール後は温泉に浸かって疲れを癒し、夕食を取りつつ今日の反省や近況報告などで楽しい時間を過ごしながらか成績発表となりました。

2018ドライブツアー成績

チーム/CP	1CP	2CP	3CP	4CP	5CP	6CP	Fin -ish	Penalty	合計	順位
河本・坂巻・中山	1	9	0	7	10	3	13	0	43	1
戸部・山崎(公)・ 小島	5	5	8	9	10	2	10	0	49	2
岡崎・佐々木	5	2	21	15	6	2	12	0	63	3

参加の皆さんも目測・歩測を駆使して10m単位を読み取ることに慣れてきたのか、大きな減点は無く僅差の結果となりました。その中で過去3回は下位に低迷していた河本チームが4年目にして初めての優勝となりました。



楽しい食事の風景



優勝の河本・坂巻・中山チーム

今回当初予定し予約もしてあった宿泊施設が一ヶ月前になって突然10月末で閉館するとの知らせが入り、慌てて今回の宿を手配することとなって予定していた宿泊料が大幅にアップしてしまったことは申し訳ありませんでした。今回も参加の皆さんより楽しいコースだったとの言葉を戴き、企画担当者としては嬉しい限りです。次回はこれまでのドライブツアーで走った地域のどこかをまた走ることと思いますが、同じ地域でも違った道を設定することで皆さんに楽しんでもらえるよう準備を進めようと考えています。



翌朝、宿近くの海岸沿いで集合写真を撮ってから解散となりました。

＝OB会&OG会活動報告・2＝ 1968年入学・同期会(2018.9.30.)

1968年入学 佐々木

日頃の練習の成果を披露するボーカル発表会で、八神純子の歌を熱唱する正装姿の中野君の映像を映し出す大画面のテレビ。それを高級シャンペン片手にくつろぎながら、にこやかに見入る男女10名(中野夫妻、島夫妻、岡崎夫妻、吉田夫妻、佐々木夫妻)。去る2018年9月30日の「車楽会」(1968年入学組・有志が夫婦同伴で開催、

岡崎君が名付け親)の二次会が行われた中野宅リビングでの一場面です。

この「車楽会」は、島君の提案で、2015年7月に「お喋り会」から始まり、その後年2～3回のペースで集まって楽しんでいます。

幹事は、持ち回りで、これまで、「カラオケ」、「ボーリング」、「バーベキュー」、「お花見」、「鎌倉散策」、「川越散策」等々、青春時代に戻って遊びまくっています。

冒頭の直近「車楽会」は、10回目となり、吉祥寺のお洒落なイタリアンレストランでランチ。二次会が、中野宅のカラオケシステム付きリビングでのカラオケ大会でした。

中野君のボーカル映像観賞の後、おいしいオードブルと選りすぐられたお酒を頂きながら、一人ひとり自慢ののどを披露しあい、採点に一喜一憂しながらもにぎやかな楽しいひと時を過ごしました。

当日は台風接近でいつもより早く切り上げましたが、大いに盛り上がった「車楽会」になりました。

・ここ数年はカラオケをやっていますが、奥方も含め全員確実にレベルアップして



来ていますので、また来年が楽しみです。(中野)
・老骨に鞭打ってまだ現役でがんばっています！そんな私にとって車楽会は、
同期の仲間と夫婦共々心安らぐ楽しいひと時です。(吉田)

以上

＝編集後記＝

佐々木 (1968 年入学)

記念すべき「ているらんぷ第 10 号」の編集は、「自動車部創部 60 周年記念パーティー」準備と並行して行うことになり、通常より 1 カ月前倒しの慌ただしい作業となりました。

編集作業の真っ最中に、「日産自動車会長・カルロス・ゴーン氏逮捕」のニュースが飛び込んできて、平成最後の「ているらんぷ第 10 号」も思い出深いものになりそうです。合わせて、同時期に「2025 年・大阪万博開催決定」が報じられ、前回の大阪万博が開催された 1970 年に、府大戦で大阪遠征した時のことが、沸々と蘇ってきました。

この「ているらんぷ復刻版」も、第 11 号からは、「第二ステージ」に入ります。「創部 60 周年記念パーティー」で共有する「自動車部 60 年の歩み」を土台に、更に歴史を掘り下げつつ、足元の現状と将来の夢を皆で語りあう場として「ているらんぷ」が刊を重ねていくことを願っています。皆様の益々のご協力をよろしくお願い致します。